

一

①～⑩の——の漢字の読みをひらがなで答え、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① 相手の希望に沿う提案だ。
- ② 愛情深く育まれた子供だ。
- ③ 自分の失敗を対岸の火事のように言う。
- ④ 大会の参加トウロクをする。
- ⑤ いつもとは違うソクメンが見えた。
- ⑥ イサギヨク罪をみとめる。
- ⑦ 安全センゲンをする。
- ⑧ 景気がコウタイしてきた。
- ⑨ 母の古里をタズねる。
- ⑩ あの子は将来オオモノになるだろう。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（問題に字数制限のある場合は、すべて句読点・符号をふくむものとする。）

明日はイチゴをフードボックスに入れて持って行く。白いフードボックスのふたを開けたら、赤いイチゴがごろごろはいつて
る……うん、すごくキュートだ。

私はもそもそとさばの味噌煮を口に運びながら、そんな風に明日のランチへと想いをはせていた。

チビたちがちやぶ台の周りを駆け回るのも、奏太が白飯をどんぶり食いしているのも、小六の真奈美が見ているくだらないお笑
い番組も、私には見えない、聞こえない、関係ない。

私は明日のランチのことしか、考えない。赤いイチゴにフォークをさして、一口でパクリと食べる。きつとさくさくと噛むたび
にジューシーな甘い果汁が口の中にひろがるだろう……。

うつとりとそんな想像をふくらませていた、そのときだった。

「お姉ちゃん、今日、病院に行ったついでにバゲット買ってきたわよ」

私は口にコロッケを運ぶ手を止めた。

「バゲット？」

「そう、病院行くついでだったから」

私はゆつくりと顔をあげて、ママを見た。ママは大きなおなかをさすりながら、にこにこして私を見ている。

「明日は果物の日だって、知ってるでしょ？」

私はなるたけ冷静さを失わないよう、静かな口調で言った。

「でも、あさってはバゲットの日じゃない」

「私が焼きたてにこだわってること、知ってるでしょ？」

私はママの目をじつと見てつづけた。

「でも、ついでだったし……」

私の怒りが通じたのか、ママが少し困った顔をする。

「ついでとかそういう問題じゃないの、わかってるよねえ」

はしゃいでいたチビたちが、おとなしくなる。

「じゃあ明日を、バゲットの日に変えたら？」

ママがとてもいいアイデアを提案してみたのに、顔をパツと明るくさせる。

「明日は果物の日なの。イチゴにするって決めてるんだから、イヤ」

「イチゴなら、さつきオレ食っちゃったよ」

奏太のその言葉で、私はおもわず箸を落とした。

「イチゴ、食べたの？ 全部？ 全部食べたの？」

私はなにかの間違いであってほしいと祈るような気持ちで、繰り返した。

「全部？」

「ああ全部だよ。うめかったあ」

① 私は言葉を失くした。本当はつかみかかって、殴りたいところだけれど、私より身体の高い奏太とはもう本気のケンカはで
きない。蹴ってふすまに穴をあけるようなヤツと、本気のケンカになって蹴られでもしたら、ものすごく痛い思いをするに決まっ
ているから。

だけど私は怒りを抑えられずに、立ち上がるとそのまま茶の間を出て、階段を駆け上がった。そして、自分の部屋に飛び込むと、
よれよれと床に座りこんだ。

カラフルなカーテンを見て、白いベッドリネン（＝シーツや枕カバーなど）を見る。だけど癒されない。
突然、びゅびゅつと涙があふれた。

顔をあげると、木目調の天井が見えて、私をますます泣かせた。

もう、イヤだと思った。

もう、限界だと思った。

私はおもいつきり声をあげて泣いた。

どうして、みんな私の邪魔ばかりするのだろう。どうして、私を逃してくれないのだろう。もう、ここに居るのはうんざりだ。

この日本じゃ、コンビニもないような秋田の下田舎じゃ、こんな典型的な日本家屋じゃ、イヤ！

スカートの下にジャージをはいて寒さをしのぐような友達や、ハナをたらしめた弟や、六人目を妊娠しているような母親じゃ、イヤ！

私が生きたい世界はここじゃない。パリの、ロンドンの、北欧の、写真集の中にあるあの世界だ！

「お姉ちゃん、はいるわよ」

私はかわいいとかキュートとかとはほど遠い声をあげて、わんわん泣きつづけていた。

「お姉ちゃん、ごめんね。ちゃんと、明日、またバゲット買ってきてあげるから。街まで行って買ってきてあげるから」

ママはそう言っ、わんわん泣いてる私の背中をさすってくれた。

「それ、それより、お願い、お願い！」

私は泣きすぎで呼吸がうまくできない中、ずっと前から考えていたことを口にした。

「私、おばあちゃんの、おばあちゃんのとこで、暮らしたい。東京のおお……青山のおばあちゃんの家につ越して、せめて東京で暮らしたい」

そう言っママの腕をつかむと、その横から三歳の美香が「あい」と言っ、私にトイレットペーパーを渡した。

私は、心配そうに顔をのぞきこんでくる美香の顔と、筒状のトイレットペーパーを見えます爆発した。

「だから、こういうのがありえないの！」

私は美香からトイレットペーパーを奪うと、それを壁に投げつけた。

「もう、こんな生活イヤなの！ 私が生きるのここじゃないの！」

そんな私の怒鳴り声と行動に驚いて、美香が「ウエーン！」と泣き出す。

「ねーちゃん、わがママだよ。身重の母ちゃんに車で一時間もかけて、あのかたいパン買いに行かせるつもりなの！」

真奈美が、泣き出した美香を抱きあげて言う。

「かたいパンじゃない！ バゲットって言うの！ あんたに私の美学がわかってたまるか！」

「わかりたくもないね。あんたのねーちゃん変わっててねって言われるこっちの身にもなってよね」

真奈美はそう言い放つと、美香を連れて部屋を出て行った。

「私は変わり者なんかじゃない！」

私は身体を折り曲げて座ったまま、床につっふしてますます声をあげて泣いた。

「変わり者なんかじゃない！ 変わり者なんかじゃない！ 変わり者なんかじゃない！」

水色のじゅうたんが汚れるかもしれないと心配しながらも、私はその姿勢のままなかなか泣き止むことができなかった。

やっと気持ちがおさまって、身体を起こしたときは、背中がボキボキと音をたてるのと同時に腰に激痛がはした。

ひとつ大きく深呼吸すると、そこにさっとキッチンクロスが差し出された。

フランスのアンティークのキッチンクロスだ。昔、誰かがお嫁入り道具として持たされたイニシャルの刺繍がほどこされたキッチンクロス……。

私はホッとして、それをつかむときゅつと抱きしめた。

私の宝物だ。大事な憧れ。大事な夢。

「お姉ちゃん」

視線を少しあげるとママが私の顔をやさしくのぞきこんでいる。

「お姉ちゃんは、日本に生まれたの」

「イヤ」

私は首を横に振って、それを否定した。私はフランスかイギリス……それがダメなら北歐に生まれたかったのだ。

「秋田県に生まれたの」

「イヤ」

私は首を振りつづけた。せめて、東京……青山とか自由が丘で生まれたかったのだ。

「山田家の長女として生まれたの。あなたは山田明子なのよ」

「イヤ」

こんな名前もイヤ。私は明子なんかじゃイヤなのだ。アンジェールとかフォステイヌが良かったのだ。

「イヤなの？」

ママがやさしい声でくから、私はますます悲しくなつてポタポタと涙を落としてコクリと素直にうなずく。

「でも」

ママは私の肩に手を置いて言った。

「そうやって、自分を否定して生きていくのは辛いわよ」

私はズズツとハナをすった。

「自分になじまなきゃ、どんな場所に行ってもなじめないわよ」

「自分に、なじむ？」

私はゆつくりと顔をあげてママを見た。

「自分と仲良しになるってこと」

「自分と仲良し？」

ママが大きくうなずいた。

「お母ちゃん、最近のお姉ちゃんを見て、ずっと思つてた」

ママは自分のふくらんだおなかをなでながらつづけた。

「友達も家族もみんなお姉ちゃんのことが好きで仲良しになりたいのに、お姉ちゃんだけが自分のこと好きじゃないみたいに見えるよ。自分と仲良くしようとしてないように見える」

私はママの向こう側にある鏡に映った自分に、視線を移してみた。③最近、あまり見ないようにしていた自分の顔だ。久々にじつくりと見る自分だ。

「憧れや夢を持つのもいいけれど、その前に自分をかわいがってあげなきゃいけないと思うよ」

にきびだらけでだんごっ鼻で、一重まぶたでうすい唇をした自分の顔が見える。その顔を見て、私の目から再びピュルルと涙が飛び出た。

「こんなのイヤだよ。自分となんか仲良くなんなれないよ。私はお母ちゃんからじゃなくて、フランス人から生まれたかったよ」

私はそう言つて X……じゃなくて Y を責めた。そしたら、私はもつと素敵だったに違いないのだ。

「ヨーロッパに生まれたかったよ」

私はそう言つと、お母ちゃんのひざにつつぷしてわんわん泣いた。そしたら、何の苦労もなくあの写真集の世界で普通に暮らせていたのだ。

「そうだね。ごめんね。ごめんね、明子」

するとお母ちゃんは、私の頭をゆつくりとなでて謝った。

「お母ちゃんがフランス人だったら、きつともつと素敵だったかもしれないね」

お母ちゃんがあまりに素直に謝るから、私はますます悲しくなつてうおんうおん泣いた。

頭のとっぺんがお母ちゃんのおなかにあたつて、その向こう側で赤ちゃんが動いているのがわかった。

「お母ちゃんも、そう思つたことあるよ」

おなかの中の赤ちゃんが、自分を嫌つて蹴つてるように思えた。

「お母ちゃんもつと美人さんに生まれたかった、背が高く生まれたかった、頭のいい子に生まれたかったつて、思つたことあるよ」

だけど、赤ちゃんもお母ちゃんと一緒になつて、私の頭をよしよしとなでてくれるようにも感じた。

「お母ちゃんも昔は自分と仲良しになれなかったの。自分のことキライだったことあるんだよ」

私はぐずぐずと泣きながら、この子はどうなんだろうと思つた。

「でも、あるとき気づいたんだよ」

この家に生まれてきたいつて思つてるのかな、と思つた。

「家族も友達もみんな自分のことが好きで仲良くしてくれてるのに、自分だけが自分と仲良しになれないのはおかしいなつて」でも、生まれてきたくなかつたら、きつとおなかにいることをやめてるかもしれない。

「こんなにみんなに好かれてるのに、自分が自分と仲良くなれないなんて間違つてるなつて」生まれてきたいから、おなかの中でじつと生まれるのを待つてゐるのかもしれない……。

「だから、明子も気づかなきゃ」

私はお母ちゃんの言葉を聞きながら、そんなことを考えた。生まれてくることを、そんな風に考えたのは初めてだった。

④ 自分が間違つてゐるつて、気づいてあげなきゃ、自分がかわいそうだよ」

私はゆつくりと身体を起こして、お母ちゃんの顔を見た。

「明子のかわいそうな人になりたいの？」

私はゆつくりと首を横に振つた。

「じゃあ、頑張つて、自分のこと好きになろう」

私は再び、鏡に映る自分の顔を見た。

「大丈夫。自分のいいところをたくさん見つけるようにしたら、きつと自分と仲良くなれる。それは今の明子にはとてもむずかしいことと思うかもしれないけれど、今のままだつて、明子のことを好きなひとがたくさんいるのは知つてるでしょ」

むくれた顔が、こつちを見ている。

「だから、頑張ろう」

私はしぶしぶうなずいた。

「明日は、バゲットでもいい？」

黙つてコクリとうなずく。

「じゃあ、夕飯のつづき食べよ。待つてゐるからね」

お母ちゃんはそう言つと、よつこいしよという感じで立ち上がった。そして、部屋を出て行くときにふと立ち止まつて言つた。「あんまり自分のことが好きになると、お母ちゃんみたいに Z がたくさん欲しくなつて、外国に行くどころじゃなくなつちゃうからほどほどがいいかもしれないけれどね」

ちらつと見上げると、お母ちゃんは私を見て、ペロツと舌をだしておどけたように笑つた。私もつられて、ちよつとだけ笑つた。そしてふすまが閉められると、私は勇気をだしてまた自分の顔を見た。

いかにも田舎者つて感じの自分の顔をまじまじと見る。

いとこのあみちゃんの友達の家にお呼ばれして、おしゃれな子たちを見たとき、生まれるところからやりなおしたいと思つた。私がいつか大人になつて、東京に来て、今からおしゃれをしているこの子たちに追いつくことは絶対にできないだろうと思つた。どんなに頑張つても秋田県出身の田舎者でしか生きられないのだと。

それまでもテレビや雑誌で見ていたはずだった。あみちゃんと会えばいつだっておしやれをしていた。だけど、なんとも思わなかった。気にもならなかった。

それが、あみちゃんの友達と会ったのをきっかけに、突然自分と自分の周囲が気になりだした。そして、そのすべてをイヤだと思った。秋田のド田舎で、やかましいばかりの大家族の家に住んで、おしやれとはほど遠い友達に囲まれているこんな顔した自分のすべてを、イヤだと思った。

それ以来、自分の顔はあまり見ないようにした。寒くても、スカートの下にジャージをはくのはやめにした。だけど、それ以外に変えようがなかった。

だけど写真集を見つけたとき、外国ならば東京出身も秋田出身も関係ないのだと思いついた。しかも、その写真集の中ではボロボロの棚をアンティークと呼んで大事にしている、でっふりと太ったおばあちゃんがかわいいとされていて、人と違うことは個性的で素敵なことでとされていた。

だから私でも、この世界でなら素敵になれると思った。イヤじゃなくなると思った。

だけど中二の私にはどうにもならない現実があつて、だからせめて今できることをしようと思った。私でも手に入れられるアイテムをそろえて、できる範囲で環境を整えて、今を耐え忍ぼうと思った。

でも、どこに行っても私は私でしかないのだ。いつかここから逃げることはできても、自分からは逃げられない。素敵な世界で生きることに、私自身が素敵になることは違うということ。

お母ちゃんはやさしくそのことを教えてくれた。ずいぶんひどいことを言ったのに、ちっとも怒らなかつた。

私はいいいお母ちゃんを持った。

それだけは、間違つてない。

素敵な事実だ。

今はまだ、こんな自分や自分のいる世界を好きになれる日が来るとは思えないけれど……。

私は立ち上がって、部屋を出た。たくさん泣いたので、ひどくおなかがすいていた。

茶の間では私が泣いて騒いだことなんてなかつたことみたいに、チビたちは駆け回り、奈太は何杯目かの白飯を食っていて、真奈美はテレビを見て笑っていた。

私はそつと自分の定位置について、食べかけのコロッケを口に放りこんだ。それは、じゃがいもがたくさんつまつたおいしいコロッケだった。

次の日のランチは、約束どおりバゲットに変更した。

そして、私はやっぱり放課後に公園に向かった。ベンチに座ってマルシェカゴからワックスペーパーに包まれたバゲットのサンドイッチをとりだす。

パクリと食べたけれど、このあいだ食べたときとはちよつと味覚がちがつた。パンをかたいと感じたし、ブルーベリージャムの味を飽きたなと思つてしまった。

私は食べかけのサンドイッチを口から離して眺めた。あんなにおいしいと思つていたのに。このカリカリした感触が好きで、ブルーベリージャムの紫色を見ているだけでうつとりした気分になれたのに……。

私は突然食欲をなくして、残りをカゴにしまった。だけど身体は正直で、おなががきゆるると音をたてた。昨日まではどんなに鳴つても聞こえないことになつていた音が、今日はしつかり耳に届いてしまう。

⑤ 私はあわてて写真集を開いた。写真の中には変わらずおしやれな人たちとその暮らしぶりが紹介されていた。ただの道路がお店の看板が道路標識だつて、私をわくわくさせたのに、今はちっともときめかない。

私はボタンと写真集を閉じた。悲しかった。昨日まであんなにも私をわくわくさせていたものが、今日は輝いて見えない。素敵に見えなくなっている。

写真集の表紙にボタリと涙が落ちた。

「あんた、なに泣いてんのさ」

顔をあげると、夏江と紀子と久美がきよとした顔で私を見ている。

「むなしい……」

私は素直に今の自分の気持ちを伝えた。

「そりゃあんた、サンドイッチだけじゃ、ひもじくなるよ」

私はむなしいと言ったのだ。

「おなかいっぱいにしてやるから、うち、いこ？」

だから、私はむなしいと言ったのであって、ひもじいと言ったわけじゃない。

「白飯にたくわんのつけて昆布茶かけて食ったら、うまいし、身体もあつたまるからよ」

久美がそう言つて、私の頭をなでる。

「そうそう、それがいいよ」

紀子がめずらしくやさしい声をだして、私の顔をのぞきこんでいる。

「そしたら、私たちと花札しような」

夏江が私の腕をつかんで、立ち上がらせる。

「そしたら、楽しい気持ちになれるから」

久美がてきばきとカバンに写真集をしまつて、マルシェカゴとカバンを私の代わりに持ってくれる。

「そうそう、今日も盛り上がつていこう！」

「おおー！」

私はそうしてそのまま今日も三人に拉致された。

⑥
ありがたいと思わなきゃいけないなと思いつつも、でもやっぱり一緒になつて盛り上がるという気持ちにはなれなかった。
いつか、自分と仲良しになつたら、そんな風に思えるのだろうかと思つた。

そしたら、こんな自分を好きだと思えて、ここで生きてもいいと思えるのかな。

パリやロンドンや、それがダメなら北欧に行きたいと思わなくなるのかな。

私は楽しい三人に囲まれながら、そんな「いつか」を想っていた。

そんな「いつか」がくればいいな……と。

（草野たき 著「ランチタイム」一部改変）

問一——①「私は言葉を失くした」とありますが、この時の私の様子について説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア バゲットもイチゴも楽しみにしていたのに、自分の思い通りにはならず、悲しさと怒りを通り越し、呆れてものが言えない様子。

イ 明日の果物の日のことばかり考えていたのに、弟がイチゴを食べてしまったことを知り、驚きと腹立たしきで何もいい返せない様子。

ウ イチゴを全て食べられてしまったことは悔しいけれども、何を言っても弟には到底勝てないと分かっているため、言葉にするのをあきらめた様子。

エ 夕食のときから楽しみにしていたイチゴが突然なくなつたという事実を知り、あまりの衝撃で動揺が隠せない様子。

問二——②「私はその姿勢く泣き止むことができなかった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 写真集の世界のような暮らしに価値を見出し、そのために辛抱してきたが、誰からも理解されず、我慢の限界がきたから。

イ 自分が周りから変わり者と言われていることを知り、私の美点を分かってほしい妹のことが許せなかったから。

ウ 怒りにまかせて幼い妹にまで八つ当たりをしてしまい、自分でもどうしたら良いのか分からないほど混乱しているから。

エ ママが私の気持ちを察してバゲットを買ってくると言ってくれたのに、真奈美にわがままだと決めつけられたことが

悔しいから。

問三——③「最近、あまり見ないようにしていた自分の顔だ」とありますが、そうしていたのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鏡を見ると自分のイヤなところばかりに目が行ってしまい、こんな自分とは仲良くしたくないと思っているのに、結局は自分と向き合わなければいけなくなってしまうから。

イ 鏡を見るとにきびだらけのおしゃれとはほど遠い自分が見えてしまい、フランス人のママの子どもとして憧れの世界で生きることが叶わぬ願いだと分かってしまうから。

ウ 鏡を見ると田舎者でおしゃれではない環境で生きているじぶんのすべてがきらいだという気持ちがあふれ、本当は何も悪くないお母ちゃんを責めてしまうから。

エ 鏡を見ると自分がお母ちゃんから生まれた田舎者であり、努力をしても都会の子たちにはかなわないという現実をつきつけられ、自分のすべてがきらいだと思ったから。

問四 [X]・[Y]・[Z]に入る言葉として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア X	ママ	Y	お母ちゃん	Z	自分の分身
イ X	自分	Y	お母ちゃん	Z	仲のいい人
ウ X	お母ちゃん	Y	ママ	Z	家族
エ X	ママ	Y	自分	Z	自分の子ども

問五 — ④「自分が間違^{まちが}つてるゝ自分がかわいそうだよ」とありますが、どのようなことが間違っているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の生きている環境^{かんきよう}や周りの人の目ばかりを気にしてしまっていたが、お母ちゃんが優しく言ってくれたので、自分のいいところを見つけていきたいと思うこと。

イ 友達も家族もみんな私のことを好きで仲良くしてくれているので、自分や周囲^{いずみ}に対して嫌^{いや}なことはあるけれど、私も頑張^{がんば}って仲良くなろうとすること。

ウ 都会や外国のように、きれいな人やものであふれている世界で暮らせたなら、それだけで素敵な生き方ができると思いい、ありのままの自分を受け入れようと思わないこと。

エ 赤ちゃんがおなかの中で「生まれたい」と思っているからこそ、この世に誕生するならば、イヤでたまらないこの田舎も家族も、素敵な場所だと考えること。

問六 — ⑤「私はあわてて写真集を開いた」とありますが、この時の私の心情を説明したものととして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これまでこだわっていたことに疑問を感じた自分の変化に驚き、興味が消えていないことを早く確認^{あせ}したいと焦^{あせ}る気持ち。

イ バグットに対するわくわくする気持ちがなくなってしまう、今までの自分の頑張り^{がんば}が全く実らなかったむなしい気持ち。

ウ このあいだとは味覚がちがっていたことや、おなかの鳴る音がしつかり耳に届いてしまった自分の変化に気づき、不安な気持ち。

エ 昨日まで輝^{かがや}いて見えていたものが、突然色あせてしまい、素敵に見えなくなってしまった自分に対する悲しい気持ち。

問七 ― ⑥「ありがたいなれなかった」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三人それぞれの方法でやさしく接してくれたことがありがたいと心から思い、三人と一緒に盛り上がるような気持ちにいつかはなりたいと願っている。

イ 自分の悩んでいることが伝わらない三人でも、今日も励まそうとしてくれることに感謝はしているが、どうしても距離を感じさみしい気持ちを抱いている。

ウ 憧れの世界とは程遠い現実で、私のむなしい気持ちを分かってはもらえず、今日も元気を出させようとする三人の気持ちは嬉しいが、どうしても消極的になってしまっている。

エ 私の気持ちは無視されて勝手に盛り上がっている三人に、恩を感じているけれども、どうしてもまだ楽しい気持ちにはなれず、申し訳ないと思っている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点・符号をふくむものとする。)

国家とは、そこに住む人たちの生存を守る組織です。その国家で、国民から選ばれて組織された政府が、国家の意思を代行して国民のための仕事をしています。

私たちが生きていく上では、とりあえず自分や家族、そして友人たちの力に頼っていくしかありません。しかし、世の中には、個人個人の力ではできないことも多数あります。それを実施するのが政府なのです。

たとえば治安を守ることです。自分たちで武器を持って自分たちを守るには限界があります。治安を守るプロつまり警察官や検察官、裁判官、刑務所職員を雇って治安を維持した方が効率的です。火事が起きたときのためには消防士も必要です。こういう仕事を、もし民間企業に任せると、どんなことになるでしょうか。

「犯人を捜査して欲しかったらボナスははさんでくれ」「火を消したかったら、出勤 **A** を出してくれ」なんてことになったら大変です。こうした業務は、国民から税金を集めて専門職員を公務員として採用するのが、一番公平で効率的なのです。

① 教育もそうです。個人で自分の子どもたちの教育をすることは可能ですが、社会全体の人々が読み書きできないと、交通信号も理解できないし、会社で働くこともできないという人たちが **B** する恐れがあります。法律が理解できない人たちがばかりでは、治安が悪くなります。こう考えると、社会の人々にとって必要な最低限の知識・教養は、義務教育として政府が実施する必要があることがわかります。

社会保障も同じことです。個々人が老後に備えて貯金をするにしても、中にはそれができない人もいます。できない人たちにとって老後は悪夢です。「その前に荒稼ぎしておこう」と考える人が出たら治安は悪化します。自分の将来に不安を持たない人が増えれば、社会は安定します。

老後に備えることができない人たちのための年金制度や、医療保険、介護保険が充実することで、その社会は安定したものに なります。

市場の失敗によって貧富の差が拡大すると、社会が不安定になります。治安も悪くなるのです。貧富の差を解消すること、格差を是正する（悪い点を直して正しくする）ことは、治安を維持し、社会を安定したものにするために必要なのです。

「格差が拡大するのは、努力する人とそうでない人がいるから当然のことだ。格差があつて何が悪い」

こう考える人もいることでしょう。しかし、格差が拡大して、将来に希望を持ってない若者たちが犯罪に走れば、社会は住みにくいものになります。金持ちは、嚴重に整備された特別地区に住み、外出するときには警備員が同伴する。世界には、こうした国が現実存在しますが、こんな状況は、決して住みやすいとは言えませんよね。

つまり、格差是正は、貧しい人を救うだけではなく、結局は金持ちにとつても住みやすい社会をつくることなのです。

格差是正の方法にはいろいろありますが、^③ごく一般的な方法は、税制（税金の制度）によるものです。所得の多い人から多くの税金を集め、所得の低い人からは、少ない税金か、あるいは全く税金を徴収しないのです。

所得が高くなればなるほど税率（税金の率）を高くしていく仕組みを「累進課税」といいます。

ここには、所得の高い人（つまり金持ち）は、社会の仕組みをうまく利用して高い所得を得ているのだから、その分、社会に対して果たすべき責任があるだろう、という考え方があります。この仕組みにより、極端な所得格差は、ある程度ならかなものになります。

しかし、累進課税が極端だと、これもまた問題を引き起こします。極端な累進課税の場合、所得が高くなると、稼いだ分がみんな税金で吸い上げられてしまうからです。これでは、働く意欲が失われます。あまりに極端だと、金持ちを優遇する海外の国に逃げ出すかも知れません。

会社の経営者など国の経済にとつて欠かせない人材は高い所得を得ている可能性が高いので、この人たちが働く気を失ったり、海外に逃げ出したりしたら、経済全体が失速してしまう恐れがあるからです。

極端な所得格差は是正しつつ、極端な累進課税も避ける。このバランスが大切なのです。

税制のバランスといえば、もうひとつあります。直接税と間接税のバランスです。これを「直間比率」といいます。

直接税とは、たとえば所得税です。お金を稼いだ人が直接納める税金です。

これに対して間接税とは、税金を払う人と納める人が異なる税です。たとえば消費税が典型的です。私たちが買い物するときに消費税も払います。^④消費税は、お店の人が預かった上で、後でまとめて国に納めます。

所得税のような直接税は、高い所得の人ほど多くの税金を納めます。「累進性」があります。

一方、消費税の場合、所得の高い人は所得の低い人の何倍も払うということはあまりありませんね。所得の低い人ほど、所得に対する税金の割合が高くなるのです。これを「逆累進性」といいます。

社会の格差是正を考えると、直接税の比率を高くした方がいいということになります。しかし、所得の高い人も低い人も、同じ社会に住み、社会を支える責任があるのに、所得が低いと税金を一切払わないというのは無責任ではないか、という議論も成り立ちます。

また、所得の高い人の中には、税制の仕組みをうまく利用して、納める税金を低く抑えている人もいます。あるいは、国が正確な所得を把握できない人もいます。こういう人からも平等に税金を集めるためには、消費税がふさわしいのではないか、という意見もあります。誰でも買い物をするのですから。

こうした各種の意見があるため、直間比率をどれだけにするかが大きな議論になるのです。ちなみに、これまでの日本では直接税の比率の方が高かったのですが、いまの政府は、直間比率は欧米並みの五分五分が望ましいと考えて、間接税の比率を高めようとしています。

税制をどうするかで、その国の人々の行動様式が変化することもあるので、税制は「国のかたち」を決める、とも言われます。市場の失敗があるからといって、「市場経済」そのものを敵視しても、世の中はうまく動きません。敵視ではなく、「見えざる手」をうまく利用する方法もあるはずですよ。

たとえば最近注目されているのが、「^⑤排出権取引」で温暖化防止を進めようという手法です。

地球温暖化を防止するためには、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を減らさなければなりません。でも、「排出ガスを減ら

そう」と唱えるだけでは、利益を追求する企業は動きません。そこで、温室効果ガスの「排出権」を取引する、という手法が編み出されました。

工場の施設を改善して温室効果ガスを削減することができた企業は、削減した分を、他社に売ることができるようになるという仕組みです。

日本全体として削減分を決め、各産業に削減量を割り当てます。削減できなかった企業は、その分を、割り当て以上に削減した企業から買わなければいけない、という仕組みにするのです。

こうなると、削減しないと企業の損害、割り当て以上の削減は企業の利益、ということになって、各企業は削減に一生懸命になるだろう、というわけです。

株式会社が目利益を追求するという「見えざる手」の働きを、環境保護に役立てようというわけです。

市場経済を万能視しないこと。市場経済をC視しないこと。すべてを自己責任にしてみせない。すべてを「お上頼み」にしない。

要はバランスなのですね。そのバランスをどうとるか。これが現代の難問なのです。

人々の努力を最大限に引き出すためには、どうすればいいのか。これが、「資源の最適配分」を考える経済学の課題です。

「結果の平等」を追い求めると「社会主義」になってしまい、人々の労働意欲が失われます。結果の平等ではなく、スタート地点ではみな同じ立場という、「出発点の平等」を大切にすることです。

たとえば、誰でも平等な義務教育を受けられることは大切なことです。たまたま貧しい家庭に生まれたために満足な教育が受けられない、という社会は不健康です。誰もが充実した基礎教育を受けることができた上で、その先は個々人の努力次第、という国のかたちが望ましいはずで

⑥ 出発点の平等を確保した上で、ある程度の「結果の不平等」が出ることは容認するしかないでしょう。しかし、その不平等が極端にならないように、所得の再配分が必要になるのです。

その再配分をどう設計すればいいのか。それを決めるのが、政治の力です。そして、その政治家を選ぶのは、あなたなのです。

(池上彰 著『「見えざる手」が経済を動かす』一部改変)

問一 A・B に最もふさわしい二字の熟語を、それぞれ後の漢字を組み合わせて答えなさい。

A 順当 番手直

B 明統 接発出

問二 ①「教育もそうでしょう」とありますが、それはどういうことですか。二十字以上三十五字以内で説明しなさい。

問三 ②「格差が拡大して」とありますが、これは誰にとって問題なのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 努力せず、貧しい人。

イ 将来に希望を持たない若者たち。

ウ 治安の悪い所に住む金持ち。

エ 貧しい人と金持ち。

問四 — ③「ごく一般的な方法は、税制(税金の制度)によるものです」とありますが、この方法において、重要なことは何ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 所得の高い人は、社会の仕組みをうまく利用して高い所得を得ているのだから、その分、社会に対して果たすべき責任があるということを考えて税制を決めること。
- イ 所得の多い人から多くの税金を集め、所得の少ない人からは、少しの税金か、あるいは全く税金を徴収しないという累進課税を活用して、格差を是正すること。
- ウ 所得が高くなればなるほど税率を高くする累進課税をするが、働く意欲の消失や海外転出を避けるため、高くなりすぎないように、バランスをとること。
- エ 所得の高い人は、会社の経営者など国の経済にとって欠かせない人材である可能性が高いので、経済全体が失速しないように税制を考えること。

問五 — ④「消費税は、お店の人が預かった上で、後でまとめて国に納めます」とありますが、別の言い方をすると、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 消費税は、払った人と納める人が異なる税金である。
- イ 消費税は、お金を稼いだ人が直接納める税金である。
- ウ 消費税は、所得の低い人ほど、所得に対する割合が高くなる税金である。
- エ 消費税は、すべての人から平等に集めることのできる税金である。

問六 — ⑤「排出権取引」とありますが、わかりやすく言うと、どういうものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本全体としての温室効果ガスの削減分を決め、各産業に割り当てることによって、地球温暖化を防止するというもの。
- イ 利益を追求する企業のあり方に注目して、温室効果ガスの排出を減らすことによって、環境保護に役立てようというものの。
- ウ 地球温暖化を防止するために、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を減らすために編み出されたもの。
- エ 温室効果ガスを削減することができた企業が、削減した分を売り、削減できなかった企業は、それを買うというもの。

問七 C に最もふさわしい漢字一字を、本文中から抜き出して答えなさい。

問八 — ⑥「出発点の平等」とありますが、それはどういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰でも所得の再配分を受け取れること。
- イ 誰もが十分な基礎教育を受けられること。
- ウ 誰もが労働意欲を失わないこと。
- エ 誰でも努力次第で未来を充実させられること。

問題は、「」までです。

解答用紙

受験番号
得点
*

一	
⑥ イサギヨ く	① 沿 う
⑦ センゲン たまれ	② 育
⑧ コウタイ	③ 対岸
⑨ タズ ねる	④ トウロク
⑩ オオモノ	⑤ ンクメン

二		
問七	問四	問一
	問五	問二
	問六	問三

[illegible]

*印のところには何も書かないこと

*	*	*
---	---	---

*

*